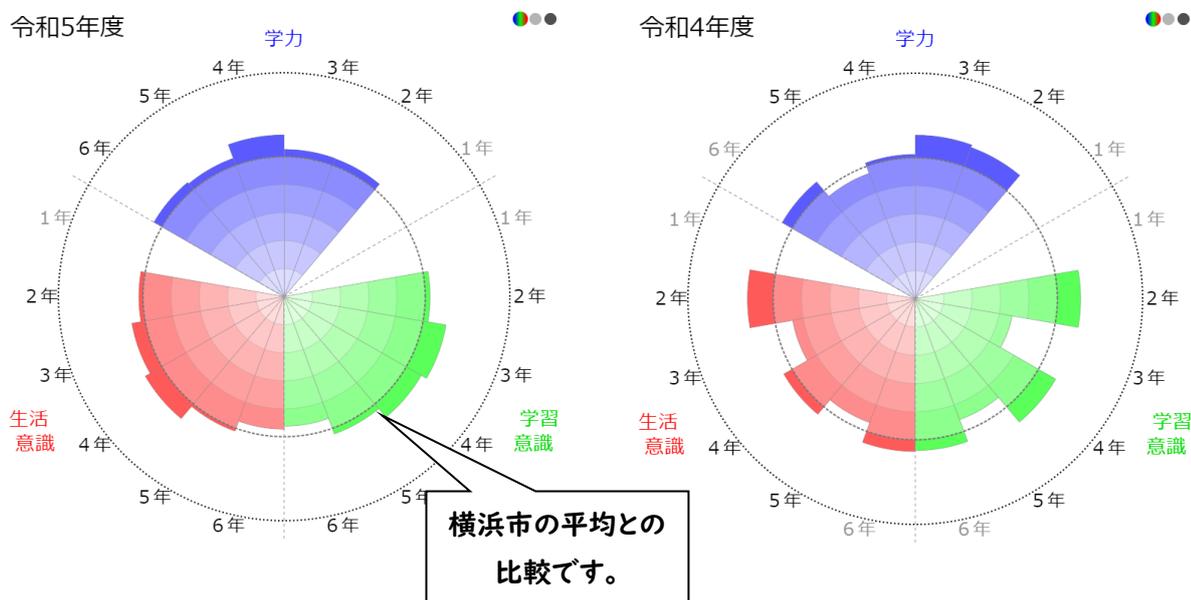


令和5年度 横浜市学力・学習状況調査結果について

令和5年4月に2～5年生で実施した「横浜市学力・学習状況調査」の結果について、次のようにまとめました。



○調査結果の概要

全体的には、横浜市の平均的な学力である。昨年度の学年により見られたばらつきが少なくなった。特に、理科と国語と算数の学習意識が高く、学力にも伸びが見られる。全体的に学習したことを生かした問題に対する理解力に優れている。

学習意識及び生活意識においても、横浜市の平均を概ね上回っている。特に、生活意識は、「校外生活」「共感性」「自己意識」の項目がいずれも高く、児童が学校でも学校以外の場でも他者と関わりながら前向きに生活していることが分かる。

○各教科について

<国語>

教科全体の正答率はどの学年でも市平均をわずかに上回っていた。特に、物語文の登場人物の様子や境遇、気持ちの変化などの読み取りは一定の効果が見られた。一方、学年が上がるにつれて、既習漢字の正答率が市平均を下回る傾向が見られた。漢字ドリルや家庭学習、小テストでの学習を積み重ね、基礎・基本の定着を図っていきたい。

<算数>

教科全体の正答率はどの学年でも市平均をわずかに上回っていた。特に「数」の領域では、どの学年も市平均より高い数値であり、全体的に理解ができているといえる。学年間の連携を取りながら、この領域の系統性をおさえ、さらに理解を深めていきたい。

<理科>

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域ごとにみると、市平均を上回っているものが多く、校内重点研究を中心とした学習活動の充実の成果といえる。また学校周辺の豊かな自然から、子どもたちが生活経験の中で身に付けてきた力も結果につながっていると考えられる。

顕微鏡の操作、温度の計測結果の適切な記録、乾電池とモーターを使った実験の結果の記録などの技能面で、正答率が市平均より低いものがあつたため、今後も観察・実験活動を行う際には、用具の使い方や記録の仕方などポイントを押さえて指導していきたい。

<社会>

教科全体の正答率が市平均を上回る結果だった。地図帳や資料を使って調べる学習や社会科見学で実物を見る経験などは今後も継続していき、役所やまちの人々の取組の工夫や思いなどに注目して考えを深めていけるよう、学習活動をより充実させていきたい。

<外国語活動>

基本的な読むこと、聞くこと、書くことについては、正答率が約80%を超えており定着できている。特に一方的な話や発表、説明の内容を捉えることができている。しかし、会話形式になると概要を捉えることに課題が見られる。

AETが話している内容を聞き取るだけでなく、AETと担任やAETと友達が会話している内容を聞く時間を作ることで会話文に対する理解を深めていきたい。

○生活・学習意識調査について

毎日の家庭学習の習慣ができている児童がどの学年も80%いることから日頃のご家庭の声掛けの結果が表れているといえる。また、読書を毎日10分以上行っている児童も学年に関わらず80%いることから、学習の中で並行読書をしたり、学習以外でも図書館を活用したりする中で進んで読書に親しんでいることが分かる。

運動についても、運動自体を好んでいる児童や運動する時間を自分から進んでとろうとする児童が、どの学年にも70%以上いる。体育の学習に限らず、休み時間も外遊びをする児童が多い本校の児童の特徴が表れている。

まちの行事に参加している児童がどの学年も半数以上いる。これは、生活や総合的な時間で地域に関わる活動を積極的に行っていることで地域の行事にも関心をもって参加しようとする児童が多いといえる。